

## 水俣病の省察～環境と福祉を一体のものとして考える

潮谷 義子

社会福祉法人慈愛園相談役

2012年6月11日

その日私は長崎にいた。夫から電話が入り、「驚くなよ、しっかりしてこの電話をきくこと！」といつものように、一方的にぶっきらぼうに話す。「原田先生が御逝去された」。私は入院中の先生を一度も見舞うことはしなかった。ひたすら寛解されることを願い祈っていた。お見舞いに行くのも怖かった。まるで「願」をかけるような思いで、「お見舞いに行くのを我慢しますから、神様、先生の生命の時間をもっと下さい」と馬鹿な祈りをしていた。本当はお会いすると泣き出してしまう自分を知っていたから…。

長崎から御自宅に直行した時にお会いした原田正純先生は、まるでお元気で入眠しているらっしゃる姿に思えた。御自宅に伺うまでは一目お別れをしたいという気持ちであった。しかし現実に御逝去された先生のお姿に驚愕と悲しみが激しく、私は半ば失心状態であった。判断力を失い時間の経過さえ分からなくなった。

御自宅での時間がどれ位経過したのだろうか。葬儀社の方から「今から御遺体を整える必要があります」ということばでハッと我にかえった。さぞかし寿美子夫人をはじめ御家族に御迷惑をおかけしたことだろう。今でも申し訳なさと身がすくむ。

## ふりかえれば

私が40歳の頃、初めて砂田明作「天の魚」の公演を見た<sup>1)</sup>。

水俣病の偏見差別の実態が、祖父と孫の関わりをとおして哀しく、切ないまでの詩のような情景の中で語られ、我が子だけではなく、私の働く慈愛園の子ども達にも見せたいという願いを持った。私は、厚かましくも友人、知人にもこのことを話し、原田先生に頼んでボランティアとして施設公演をしていただきたいと願い出、ついに施設公演を実現させた。原田先生のわかり易い「水俣病」の話、砂田明さん、そして御伴侶である砂田恵美子さんのおひきになる三味線が古びた園の会場に流れ出し、園の児童達は舞台にくぎづけになっていった。一人ひとりの子ども達が「水俣病」ということばを恐らく初めて耳にした日ではなかったろうか。

園の子どものお多くは差別される側に立つ事が多い。自分達が経験したことのない社会にあ

る“人権”、“差別”に目を向けるきっかけとなったことは、その後の彼らのことばの端々から感じ取ることが出来る。

ふっと今原稿を書きながら、あの時の公演は本当にボランティアだったのだろうか、と思う。もしかしたら、いやきっと原田先生の資金援助で実現したのだ！

先生と知り合ったきっかけは大分から熊本に居を移し、社会福祉施設慈愛園乳児ホームで働き始めた頃である。大分在住の頃から子ども達に音楽や演劇を見せるために子ども劇場に参加させていたので「熊本でも」という願いがあった。この実現の向こうに原田先生の存在があった。

慈愛園の仕事の1つとして、私は数人の専門職と御一緒に「福祉相談所」を法人内に設けた。恐らくこんな縁だと思うが、ある時、熊本県の依頼で保健所の「就学前健康診査」を担当することになった。実は当時、障がい児教育の資格が取れる大学は東京教育大学（今日の筑波大）と私の母校の日本社会事業大学2つという時期があった。

夫と私が免許を取得していたことも依頼の理由の一つではなかったかと思う。私の担当は松橋保健所と水俣保健所であった。今思うと私はすでに水俣病の事については知ってはいたが理解はしていなかったといえる。

水俣駅から水俣保健所に向かうタクシーの中で頼みもしないのに「水俣病」について話す運転手の方も多し。彼らが偏見差別を持ち、この厳しい状況に多かれ少なかれさらされていることに気がつくのにさして時間はかからなかった。検診を受けにくる就学前の子の親が「大丈夫でしょうか」「問題はないですか」と不安に満ちた話をされる理由が水俣病に関係していることを感ずるにも時間はかからなかった。

## 熊本県政に関わる

1999年3月8日、私は県政の柱に「福祉」をおきたいからと福島譲二県知事（当時）に説得されて副知事案件を承諾し、3月12日議会承認となった。どんなに大変な案件であっても最終的には福島知事の知性と胆力、多くの人々との間に築かれてきた政治力や人間性で解決に導かれてきたリーダーシップがあったことは知っていたのでお受けした。

2000年2月25日、夫や慈愛園の職員と共々長陽村の保養施設で夕食会をしていた最中、「知事が黒川温泉で倒れたらしい。今一番近いところに居る副知事が現場に行って欲しい」と連絡が入った。

病院に着くと院長が玄関に立って「九分九厘、ダメと思う」と沈痛な面持ちで伝えられた。恭子夫人の到着を待って臨終の時間を告げられた。

2000年2月26日夜間から朝にかけて今後の葬儀と当面の県政運営論議のため、知事公舎に

幹部は集合し、やがて主たる議員の姿も見え始めた。長い長い沈黙、論議、余りある難題、しかも今後の知事選と関わってくる案件に幹部は誰一人として口を開かない。隣席に座した三角保之市長（当時）が突然「ここはアンタの出番バイ！収まる唯一つの方法」と予想だにできなかった発言をされた。私自身は葬儀の後、ライフワークの「福祉」の場に戻ることを当然と考えていた。自分にそんな舵取りが出来る筈はないと辞退して逃げて拒否しても私の知事選出馬は避けられそうにない状況の日々となった。

そんな折、天草に向かう飛行機の中で福島夫人が「夫の葬儀責任者はどうなるだろう」と話し出された。まるで知事ご自身が語られているような錯覚さえした。この一言が私に決心を促した。

### これまでと同じではないか…？

2000年4月、人知で計り知ることが出来ない思いの中で私は「知事」に初当選した。原田先生は「今後は僕をよく知っているという顔、話はしちゃダメ」と話しかけられた。冗談ばかり仰言る先生のおっしやと受け止めた。

「先生、全く私の中身は変わらんよ」とお伝えすると「水俣病」問題は、県と自分は同じ立ち位置に居ないことを話し出された。先生のことはショックだった。しかし、私は先生への信頼は変わる余地はないと考えていた。

いつの時期だったか今ではよく判らなくなったが、水俣学の講義を原田先生に依頼された時に「立場の違い」にどう折り合いをつければよいのか、講義の途中から私は混乱しだした。性格的に自分をごまかしたり偽れるほど私は器用ではない。はっきり「県の見解はこうです、



図1 水俣学講義で原田先生が紹介する場面

出典：熊本学園大学水俣学研究センター所蔵 2010年12月2日撮影

注記：手前が原田、奥が潮谷



図2 水俣学講義が終わって

出典：熊本学園大学水俣学研究センター所蔵 2010年12月2日撮影

注記：左から深草、井上、潮谷、原田、田尻、花田

しかし私個人は違います」と言う立場にはないことを痛切に実感したまま歯切れ悪く降壇した。

もう一度この時と大差ない状況で、はっきりと水俣病についての見解を示せなかったのが認定NPO法人 水俣フォーラムでの講演であった（2013年）。「最初から引き受けなければよかったのに…」と今でも思う。

原田先生の言われた「立場の違い」の現実という事実を直視することを恐れて目をそらした「自分」の弱さを深く恥じている。知事職のことは重い！一人の水俣病の現実はもっと重い。

こんな状況の中にあつた私が水俣学の今後について“とやかく”言う資格はない。しかし厚かましさをお許しただくなら、「社会福祉をライフワーク」としての立場からお伝えしたいことがある。

原田先生は1970年3月に開催された「環境破壊に関する東京シンポジウム」（主催：国際社会科学評議会）の東京宣言を引用し、「人たるもの誰もが、健康や福祉を侵す要因にわざわいされない環境を享受する権利、将来の世代へ残すべき遺産『環境権』がある」と触れている。加えて環境福祉学会の一人も、同様に今生きている人たち、そして将来の子ども達を犠牲にしていないという確約が必要で、一人ひとりの真の豊かさを追求する「福祉」と未来世代を含む人類総体の豊かさを追求する「環境」は一体・連続のものであると述べられている。

2009年の「水俣病被害者の救済及び水俣病問題の解決に関する特別措置法」（以下、水俣病特措法）は不知火海沿岸の住民健康調査は客観性を担保していくために実施することを求めている。その調査が信頼されるものであることを前提として、今はこの世に存在していな

い生命、「水俣病」の重荷を背負い、日々呻吟している生命、健康な誕生を不安を抱えつつ迎えようとしている母子、一人ひとりの真の豊かさを追求する「福祉」と未来世代を含む人類総体の豊かさを追求する「環境」は一体・連続のものと述べられていることを忘れてはいけない。

私は、各々の現場で原田先生に全幅の信頼を寄せている。胎児性水俣病の人々の存在に名状し難い信頼と人間的な関わりの深さを感じた。

私は社会福祉を学んだ立場の者として、胎児性、小児性患者の支援、何よりも不知火海環境調査、居住権を持つ約47万人の健康調査等、客観性を求める方法に着手する必要があると考えている。

願わくば2009年水俣病特措法に求められている不知火海沿岸の住民健康調査の実施を、その第一歩の声を熊本学園大学水俣学研究センターで取り組んで頂ければと願う。

注

- 1) 詳細は、川島宏知「ひとり芝居 天の魚」2018年11月22日熊本学園大学水俣学講義資料を参照。  
<https://gkbn.kumagaku.ac.jp/minamata/wp-content/uploads/2018/08/340d8976960e68306bf2f7fb9d6e7ac2.pdf>、2025年12月15日最終閲覧。